

北鎌倉台峯トラスト 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

会報

# 北鎌倉だより

2009年2月 NO.20



北鎌倉グリーンテニスコート計画地（ゴロスケ山）  
山ノ内配水池から葛原岡に向って

## 台峯を緑の孤島にしないために

### 目 次

■ 卷頭言・臨時総会報告 .....	2	■ 北鎌倉・洞門山開発阻止について .....	8
■ 10回記念トラストの集い報告・新年会 ....	3	■ 会計報告 .....	9
■ 緑のつながりを大切に .....	4	■ 台峯ニュース .....	10
■ 怖い道・山ノ内瓜ヶ谷緑地保全に至る経緯 ...	5	■ 川上さんのちょっと昔の物語 .....	11
■ 中央公園・台峯・葛原岡への道 .....	6	■ 活動報告・台峯保全連絡会報告・伝言板	12

## 卷頭言

石黒ひで

私たちの会は 11 年前に不動産会社が宅地として台峯の開発を企画していることを知って、台峯の魅力を多くの方々に体験して頂き、開発を阻止する力になって頂くためにできました。政治運動ではなく、毎月一度リーダーのなだいなださんや、山の植物、鳥、虫、などにお詳しい久保さん等と、それぞれお好みのある皆さんのが歩いていただき、台峯の保持を望まれるようになっていただく為でした。

昨年の末、鎌倉市は市民が寄付金を募る用意があると表明したことに対応して、台峯の隣接緑地を保持する方針を決めました。私達のみならず多くの方々の緑地保全のためになされた努力が報われました。

私どもグループの事務局をして下さった小林さんと機関紙「北鎌倉の風」の編集をして

下さった樋原さんのお二人が、会の目的の成就を見ずに、亡くなられたことが残念でなりません。又、いつも私どもの会を支持して下さい、「北鎌倉の風」第 4 号に「台峯と六国見山を含む、この北鎌倉の緑地はなんとしても保存して後世に残さなくてはならないところである。・・私は再び老骨にむち打って立ち上がらなければならないか！」と書いて下さった東慶寺の井上禪定和尚様が、一緒に喜んでいただけないのが残念です。

台峯が眺められる土地を、お寺からお借りして住むことが出来るので、20 年前に、外国での哲学教師を止めて、日本の大学に戻って来た私は、台峯のいくつもの緑のうねを眺めては、市を影響するのに力を添えて下さった皆様に感謝しております。

## 臨時総会報告

昨年 11 月末のトラストの集いに先立って臨時総会を開催しました。

このほど台峰に隣接するゴロスケ山開発計画が明らかになり、市は住民の協力を得てトラスト的方針によりこれを防ぐ方針です。

当基金も積立られた浄財を拠出して市に協力すべきとの考え方から、積立金拠出を含んだ今年度事業計画案と来年度収支予算書案を策定しました。

ところで定款上当基金の事業は台峰のみに限定されているので、上記拠出を行うためには、事業対象を台峯の周辺をも含んだものに拡大すべく定款を変更する必要があります。

そもそも、以前台峰 保全を市が決めた際

には、目的が達成された以上積立金は市に寄付してしまえばという意見も出ました。しかし、真に台峰を守るにはその周辺をも開発から守っていく必要があるので、その時点での寄付は見合わせるとともに、事業対象を拡大する旨の提案が 2006 年 5 月の定時総会において採択されています。けれど当時は周辺での開発計画が表面化しておらず、定款変更までは至らなかったのでした。

これらを併せてこの度の総会に諮ったところ、幸いにも賛同を得て採択されました。

今後は執行機関である理事会によって積立金が拠出される運びです。

本田隆史

## 第10回トラストの集い報告

昨年11月30日、山ノ内光照寺で、38名の参加者を得て「トラスト10周年記念集会」が開催されました。

冒頭、石黒理事長の挨拶を皮切りに、来賓として「みどりショップ」の前田陽子さんから10周年を迎えての祝辞をいただきました。

活動報告、会計報告、に続いて、久保理事から「台峯を緑の孤島にしないために」をテーマにテニスコート（西瓜ガ谷開発地区）造成開発反対の意義、必要性が述べられました。

休憩後、初代理事長のなださんは、過っての日本とは思えない変貌（格差社会の遍在化や深化）政府がクラスター爆弾の禁止条例に加わらなかつたことなど多岐にわたる事柄に懸念を表明されました。

会員とのフリートークでは、テニスコート予定地（ゴロスケ山）の「基金」による買い取り計画について、活発な意見交換が行われ、皆さんから了承されました。また買取後の緑地保全のあり方、困難性が提起されボランティア参加者の拡大、充実、と共に台峯の自然と環境に対する深い知識を共有できる人材の育成（若年層）が真に求められている現状が語されました。

それにつけても、会場となった光照寺前の崖地が切り崩され、春には、桜とダイコン草の花々が道行く人々を楽しませた場所が、パックリ空けられたコンクリーのガレージに造成され宅地化された光景は、もう一つの変貌を北鎌倉に刻印したのでした。

小田原茂夫

## 新年会

1月11日午後にNPOセンター鎌倉で定期的の理事会後の午後に新年会がありました。昨年夏より台峯緑地と葛原岡とを結ぶ緑地（通称ゴロスケ山）の保全を願って活動を続けておりましたが、鎌倉市も保全の方向で検討を始めました。当基金をはじめとして市民が保全のために寄附を、という動きがあったことに加え、2004年の台峯緑地保全決定後に、引き続きその手入れを担ってきた私たちの活動も鎌倉市を動かす力となりました。このことを沢山の方と喜び合いたいと、

理事や正会員に加えて、台峯の手入れに定期的に参加されている方々にもお集まりいただきました。なださんをはじめとして、お忙しい中参加された皆さんが、ひと言づつ台峯について、またこの会発足以来の思いを語りました。手作りのお料理やお菓子も並んで、山の手入れのあとのお茶会のように、さわやかな雰囲気の楽しい会となりました。



## 緑のつながりを大切に

### 山ノ内瓜ヶ谷緑地（北鎌倉グリーンテニスコート計画地・通称ゴロスケ山）の保全

鎌倉の地図を開くと、台峯と中央公園は、源氏山方面から西へ突き出た緑の半島のように見えます。半島の付け根が、今回保全が決まりそうな通称ゴロスケ山の緑地です。

この緑地をつたわるように野鳥が源氏山方面から移動して来る様子は、「台峯を歩く会」で観察しています。普段は人が入らない斜面緑地ですが、中に分け入ると、獣が通る細道が道路と平行しており、狸などが源氏山方面と行き交いしている姿がうかがえます。このような生き物たちの移動経路は「緑の回廊」と称され、いわば「緑の架け橋」のような役割を担っているので、生態学的にも重要な場所として評価されているのです。

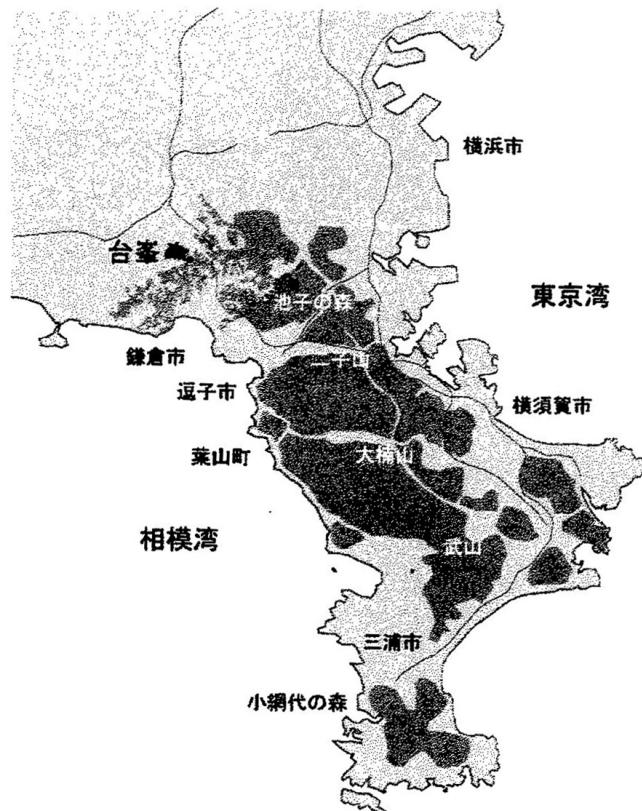
今、鎌倉のような大都市近郊の緑地では、緑地の分断が大きな問題となっています。つまり最初は大きな塊であった緑地が開発で虫食い状にされ、さらに分断されることで生物の種類が減ってしまうからです。同じ50ヘクタールの緑地があったとしても、一箇所にまとまっていればフクロウが住めるかもしれません、数箇所に分断、点在していては住めないでしょう。緑地面積だけでは自然の豊かさは判りません。緑地の質と同時に緑地間の生物の往来があってこそ、本物の「生態系」と言えるのです。

もう一度、地図を見てください。虫食い状にされながらも、緑のつながりが保たれている鎌倉の山並は、三浦半島の緑ともつながっていることがわかります。台峯の自然は三浦

半島の懷に抱かれています。これからも台峯で増えた生物はゴロスケ山の「緑の架け橋」を渡って、市内に広がっていくことでしょう。生き物たちのネットワークがまだからうじて機能しているのが鎌倉です。大きな公園があっても四方を街に囲まれている都会の緑地と鎌倉の違いがここにあります。

三大緑地の保全が決まった今、大きな緑地をつないでいる小さな緑にも「緑の架け橋」としての価値を見出し保全の声を挙げること。これからの鎌倉の緑地保全の方向ではないでしょうか。

久保廣晃



## 怖い道（ゴロスケ山の話）

川上克己

テニスコート開発計画のある瓜ヶ谷の緑地付近は付近の梶原山住宅地が開発され、6m道路ができるまで鬱蒼とした杉林でした。そのころを知るカレンダーの写真でお馴染みの川上克己さんにお話を伺いました。

~~~~~  
60年位前の遠い昔の話だ、村の子供達の一団が山歩きだ。ガキ大将を先頭に歩き回っていた。桔梗山の高射砲陣地跡や葛原ヶ岡神社が、子供達の遊び場としてお気に入りだった。海は見えるし、芝生で遊べる所なのだ。

ひとしきり遊んで帰るときには日暮れに近い。帰り道の途中には、人が怖がるゴロスケ山を通らなければならない、人の肩幅くらいしかない細い山道だ。杉林に囲まれた昼間でも薄暗い道だ。いかにもゴロ助（フクロウ）が昼間の休息に好みそうなところだ。

子供達がそこに差し掛かる頃には日暮れていた。前を歩くガキ大将もこわいはずだ、ま

して低学年のような子には魂げるほどの緊張だ。勇気を奮い立たせる為に、「元寇」（注）を誰かれなく歌い始める。腰に挟んだ手製のカツの木（ヌルデ）の木刀を抜いて振り払いながら。「…四百余州の乞食・椀もってかどに立つ・おばさんマンマ呉れよ・腹がへつてしょうがねえ～…」気持ちを鼓舞する時、この「元寇」の替え歌を歌った。

たわいも無い歌だが怖さを克服するためには、歌わずには居られないほど怖い道だったのだ。

注 「元寇」 作詞・作曲：永井建子（陸軍軍楽隊）  
明治25年発表「四百余州をこぞる・十万余騎の敵～」

### 山ノ内西瓜ヶ谷緑地保全に至る経緯

2008/7 テニスコート開発計画浮上。計画地は市街化区域であり、緑の基本計画上は「緑地保全配慮地区」でしかなかったため規制がほとんど無く、隣接地は既に開発されていた。

2008/8/1 瓜ヶ谷町内会に事業者から開発の通知。事業者の説明会（8/4,24）市役所担当者の説明会（8/27）

2008/9/2 瓜ヶ谷町内会及び梶原山町内会が保全の陳情を市議会に提出。西瓜ヶ谷 1140-1 他の緑地の買い取りを含めた保全を求めた。

2008/9/8 当会は臨時理事会開催。当該地の保全のための要望書の提出を決定。

2008/9/9 市長宛要望書「『北鎌倉グリーンヒルテニスコート』開発計画地の保全を要望します」を提出。  
基金の積み立て金を醸出する方向で検討することを表明

2008/9/10 建設常任委員会 瓜ヶ谷町内会と梶原山町内会環境委員会よりそれぞれ1名が陳述した。  
**山ノ内西瓜ヶ谷 1140-1 他の保全は全会一致で採択された。**

「…住民の間に買い取りに向けたナショナルトラスト的な基金設置等の動きが生まれていることから（中略）いずれの陳情も全会一致により採択し、本会議でも総員の賛成により採択しました。」議会だより（11/1版）より

2008/11/30 臨時総会開催 基金の寄付金は山ノ内瓜ヶ谷緑地の買い取り保全のために定款を一部変更、

鎌倉市の緑基金に寄付することに決定。引き続いて 10周年記念トラストの集いが開催された。



洞門山開発予定地

北鎌倉駅

円覚寺

東慶寺

ゴロスケ山開発予定地  
(北鎌倉グリーンテニスコート)

葛原が岡

源氏山

## 北鎌倉・洞門山開発阻止について

この場所について、2008年12月、鎌倉市議会に「北鎌倉まちづくり協議会」（代表坂田庄次氏）から提出された陳情文の記述をお借りして説明しておきます。

この場所は大佛次郎が、“鎌倉の玄関”と記し、“鎌倉市都市マスタープラン”でも市の玄関口として位置づけられています。JR北鎌倉駅の円覚寺側、大船寄りに位置し、東京方面からの車窓に鎌倉らしい緑豊かな景観として最初に、しかも間近に目に入る場所です。こんもりとした樹林、隆起した岩肌、赤の洞門（素堀りのトンネル）、小さなお稲荷さんなどが、風情ある北鎌倉の景観をつくりだし、八雲神社の鎮守の森でもあり、風致地区として守られてきました。

20,700余の署名を添え、この森の保全を訴えた陳情は、2008年の12月の市議会建設常任委員会および本会議で全会一致で採択されました。

この場所に「鎌倉市まちづくり条例による標識」が設置されたのは2008年3月19日のことでした。この森も歴とした私有地であり、破壊されることもあり得るなど、地元の人間は考えたこともなかったほど親しんできた森であり、トンネルでした。地権者は長く地元にお住まいの方、しかし、今迄4回開かれた説明会に、施工業者ともども一度も顔を見せる事ではなく、委託されたと称する設計業者が専ら衝に当たっているだけです。「北鎌倉まちづくり協議会を中心に、「基金」の会員や地元の人びとによって結成された「北鎌倉・洞門山を守る会」の詳細なデータを挙げての追求には満足な回答をすることもでき

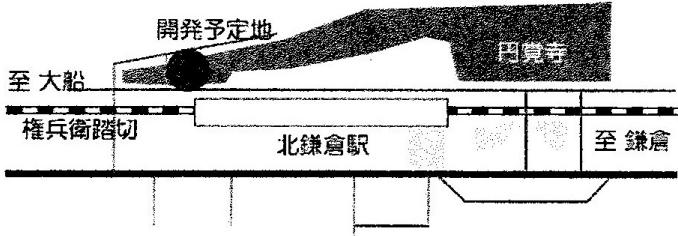
ないあります。

一方、「守る会」や、「基金」は市長宛要望書を提出し、「市長とのふれあいトーク」、土地利用担当職員との面会の機会を求め、強く保全を訴えました。市側からも開発を食い止めたいとの意向は示されるものの、「まちづくり条例」をクリアした計画を阻止するにはキメ手を欠くというのが実際なのでしょう。

市議会の陳情採択を受けた市による買取交渉を後押しする、住民の対応策がこれからの課題になります。

昨2008年、「基金」は台峯周辺緑地、洞門山保全の両方に関わり、大忙しの1年でした。「緑の基本計画」で規定されていない身近な緑の保全は困難です。計画がもち上がるたびに対応するのではなく、抜本的には方策が求められています。現代では緑の景観は個人に属するのではなく、公共の財産であり、住民の宝なのですから。

和泉あき



## 会計報告

特定非営利活動法人  
北鎌倉の景観を後世に伝える基金

(平成20年4月1日より21年1月31日まで)

|    | 科 目     | 金 額        | 摘 要                |
|----|---------|------------|--------------------|
| 収入 | 会員      | 405,500    | 会員180名 正会員23名 法人3件 |
|    | 機関紙     | 2,000      | 4部                 |
|    | カレンダー   | 376,200    | 400部               |
|    | 助成金     | 431,591    | 手入れ等活動費            |
|    | 寄付金     | 47,510     | 緑積立金               |
|    | その他の収入  | 10,604     | 預金利息、絵葉書           |
| 合計 |         | 1,273,405  |                    |
| 支出 | 手入れ     | 57,442     | 台峯緑地の手入れ           |
|    | 緑地保全    | 18,640     | 台峯緑地周辺の藤本等         |
|    | 山歩き     | 32,459     | 毎月行っている山歩き資料、室料    |
|    | 会報      | 48,239     | 8月発行分              |
|    | 会員の集い   | 73,615     | 20/11/30光照寺で行った。   |
|    | カレンダー   | 332,755    | 21年度分発刊費用送料を含む     |
|    | ホームページ  | 36,540     | 毎月更新               |
|    | 他団体交流   | 13,458     | 鎌倉NPOセンターに協力       |
|    | 事務管理費   | 156,649    | 総会、会員証送付、その他       |
| 合計 |         | 769,797    |                    |
| 資産 | 現金及び預貯金 | 1,854,904  |                    |
|    | 緑積立金    | 13,553,050 |                    |
|    | 合計      | 15,407,954 | 正味財産               |

## カレンダーについて

私たちはその自然保護の活動の内容を理解していただくための普及事業として、これまでもイベントの開催や機関誌の発行を行ってまいりました。

一昨年より其の一環としてカレンダーを作成し、もっぱら会員向けに有償で配布させていただいておりますが、当基金は公益を目的とするN P O法人でありますので、規定によりこの配布は法人税法の収益事業には該当いたしません。

注 出版業に関する収益事業についての法人税法上は以下の項目に規定されています。

○法人税法施行令第五条

○法人税法取扱通達 基本通達

## 台峰ニユース

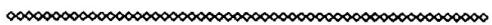
### モニタリング（マップ作り）報告

平成18年夏から月2回（第1日曜日8時と第3日曜日前日の土曜日の同時刻スタート）台峰を歩きながら観察記録を作っていますが、平成20年後半も概ね順調に作業することができました。

モニタリングは「どこに何があるか」を知る（see1）ことがまず第一歩です。それゆえ当初は「マップ作り」と呼んでいました。次に自然を守るために「何をすべきか」を考え（plan1）、更に実際の保全作業、つまり第3土曜の「山の手入れ」（do1）と続くのです。そして再び作業結果として「どこに何が出現したか」を知る（see2）…という循環になります。

ます。経営学でいう plan-do-see と同じサイクルですね。観察データはまだまだ不足しています。このたび月1回平日に台峰保全連絡会及び鎌倉市公園海浜課による観察会も行われることになりました。データ蓄積が進むものと期待されます。

少なくとも台峰が正式に供用開始となるまでの約8年間は私たちも保全に協力していかねばなりませんし、そのあとも市が具体的な保全活動を行うに当ってはこうしたモニタリングが必要となるでしょう。そういう意味では永遠に続けられなければならないものかもしれません。皆様もどうぞご参加下さい。



### 山の手入れ報告

#### 1月の作業内容

- 老人の畑 土手への侵入を防ぐため、ササを立てて柵代わりにする。  
イス代わりになっている丸太を埋め込んで固定する。
- 老人の畑の向かい側斜面 ササ刈
- ヤマナラシの幼木生育地の日照確保
- 谷戸の池落ち口の落ち葉掃除
- オギ原の刈り込み 作業と枯れ草を集める作業
- 散策路の補修整備
- 水路の土嚢積み



今年最初の山の手入れが1月17日（土）に行われました。参加者22名。お天気も良く、それぞれの場所に分かれて作業を楽しみました。皆さんの今年の手入れにかける思いが感じられ、思わず集合写真を撮りました。

（右写真）



## 歩く会のチラシ

私たちの会が 1998 年から台峯を歩き始め以来 10 年余り久保廣晃さんが案内して来られました。久保さんは 2002 年から歩く会のテーマを毎月 A4 版裏表にまとめ、チラシとして作成し配布されてきました。このごろ流行の検定が台峯にもあるとしたら、その教材となるような、多岐にわたった内容になってきています。1 月のテーマをご紹介します。【シダ】ベニシダ、イタチシダ、ミゾシダ、ホシダ等生育場所、葉の特徴の解説付



### 協働とは？

「協同」ならぬ、「協働」、N P O の世界ではよく使われますが、まだ一般には馴染みのない言葉かもしれません。「行政と市民が平等な立場で互いに切磋琢磨しながら一つの目的に向って汗を流すこと」と私は解釈しています。近年の行政と市民活動の歩み寄りを背景に生まれた造語ではないかと思います。その様な意味で、まさに台峯の活動は協働を具現していると言えるのではないかと思う。 「協働」という響きにこめられた、責任の重さの向こうに大きな夢を見ながら台峯の保全活動を進めていきたいと思います。

## 川上さんのちょっと昔の物語

### 【くず掻き】

農閑期の冬の間、村のむすめ達は籠で燃やすモシキ（燃料）を山へ取りに行く。女だけの仕事だ。枯れて落ちた杉の葉、松葉が籠（かまど）で煮炊きするモシキになるのだ。

嫁入り前の娘達だ。一人では物騒なので山には行けない隣近所のむすめ達がまとまって、くず掻き用の籠を背負い熊手を持って山に入るのだ。

松葉は松林、杉っ葉は杉林それぞれ植林された林に入る、林の中は下草が無いから熊手で容易に掻き集めることが出来る。籠に詰めるだけ詰めて、更に籠の容積の倍以上を上に載せて、縛り付けて背負うのだ。どこも林は斜面だ、急な所もあれば滑る所もある。それを家と山とを一日 3 ~ 4 回往復を繰り返して、それぞれの家のモシキ小屋に貯め込むの

だ。女には重労働であったと思う。

きつい仕事のわりには、家の姉達は泣き言も言わずに楽しそうだった。仕事の合間のひと休みにオコジョ（おやつ）の蒸かし芋など食べながらのおしゃべりが楽しかったのだ。

尾根から下の梶原の田んぼまで、樹齢 50 年位の大きな杉林が続いている、くず掻きに良い場所があった。人があまり入らない所なので杉っ葉は沢山ある、

村の者はその一帯をごろすけ山と言ってなぜか怖がっていたのだ。娘達も周囲の林のモシキを取り尽してしまうと、しかたなしに普段は入らない、怖いごろすけ山で意を決して、くず掻きをしたのだ。帰ってくると家の者に「…ごろすけ山で掻いてきたよ～…」姉達は得意なのだ。

## 活動報告

(2008/8月～2009/1月)

|                      |                                                       |
|----------------------|-------------------------------------------------------|
| 1 定例理事会              | 8/3・9/7・10/5・11/2・12/7<br>2009/1/11                   |
| 臨時理事会                | 9/9                                                   |
| 臨時 総会                | 2009・1/11                                             |
| 2. 台峯を歩く             | 8/17・9/21・10/19・11/16・<br>12/21・2009/1/18             |
| 3. 山道整備作業            | 8/16・9/20・10/18・11/15<br>12/20・2009/1/17              |
| 4. モニタリング<br>(マップ作り) | 8/3,16・9/7,21・,10/5,18・<br>11/2,15・12/7,20・ 2009/1/17 |
| 5. 台峯保全連絡会           | 8/26・9/29・10/27・11/28・<br>12/22・2009/1/26             |
| 6. 公園海浜課との現地調査       | 8/24・9/26・10/31・<br>11/18・12/19・2009/1/15,19          |

## 伝 言 板

### ●カレンダー「台峯の四季」2009年版

完売御礼

2009年版のカレンダーは俳句に替わって唱歌や国民歌謡から1節を抜粋して写真に添えました。昨年は部数が足りず、ご要望に応じきれず申し訳ありませんでした。

今回は部数を400部に増し、なんとかご希望にお応えできました。お買い求めいただきありがとうございました。スタッフ一同お礼申し上げます。来年もよろしくお願ひいたします。

### 新規会員募集中

年会費 2,000円

会費及び寄付金の振込み先

郵便口座番号 00250-2-20454

口座名 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

## 台峯保全連絡会報告

### 行政との協働作業が始まりました。

台峯緑地の維持管理方針が決まった現在、開園に備え、それらを現場で試行しながら実効性を確かめることが求められています。当基金は「台峯保全連絡会」を通じ、行政と共に毎月現地視察を行ってきましたが、それとは別に1月より現場の作業も行政と協働で実施することになりました。市民任せではなく、自ら現場の作業を体感することで、今後に役立てたいという行政側の要望に応える形で始まりました。台峯緑地の維持管理方針には、一般の公園管理や農作業とは異なる新しい試みが随所に盛り込まれているので、前例の無い未知の事項がたくさんあるのです。一定時間にどの程度の作業が出来るのか、どんな道具が役立つか、生態系を保全する上でどの程度効果があるのか、現場で経験を重ねる中で、既定の維持管理方針がより現実的なものに磨かれていくことでしょう。

約一年後、来年の3月に、その成果をまとめる事になっています。自然を見る目、愛する心があれば体力の無い人でも参加できる、自然保護を主眼においた丁寧な維持方法の確立を目指したいと思います。

### 会報 20号

発行日 2009年2月20日

発行者 NPO 法人 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

事務局 〒467-0062 鎌倉市山ノ内 704-9

(和泉方) TEL 0467-47-9892

Email aramaki@gw3.u-netsurf.ne.jp

HP <http://www.kamakura-daimine-trust.org/>

写真提供: 石原瑞穂・市川和夫